



復興に懸ける 男達の思い



ミンダナオ島はフィリピン政府軍と新人民軍との対立が続いており、紛争地では長年にわたり人道支援を受けていました。そんな中2012年12月、台風パブロがフィリピン南部ミンダナオ島を襲い、甚大な被害をもたらしました。現地は壊滅的な状態で90%以上の建物が倒壊したうえに、かつてない異常気象による大雨と強風が続いていました。

クリニック設営予定地では、整地を行う必要があり、現地の建築会社に協力を交渉しましたが「クリニックの設営も大切だけど、インフラの復旧も大切なんだ」と、全て拒否されました。しかし翌日、設営予定地に行くと、なんと既に整地が完了していたのです。建築会社の社長は「昼間は橋の修理で重機が使えないから、夜のうちにやっておいたよ」と。社長は昼間に橋の修理を終えたあと、たった一人で不眠不休で整地を行っていたのです。

社長は「外国から救援隊が来てくれている。自分たちにも出来ることがあるのではないか。一刻も早くクリニックをオープンしたいという君達の思いに何としてでも応えたかった」と話してくれました。疲れているはずなのに満足そうにそう語ってくれた社長の笑顔に胸が熱くなりました。

基礎保健RDフィリピン南部災害救援事業 臨床工学技士 新居 優貴